

⑥大熊町立「学び舎ゆめの森」建築事業

受賞機関 福島県大熊町

キーワード 認定こども園と義務教育学校の一体化、アナログ/デジタル環境の融合、教育を柱とした地域活性化、次世代型エコスクール

全建賞審査委員会の評価ポイント

認定こども園と義務教育学校を一体化した大熊町立学校の整備。様々な年代との交流を可能とするだけでなく、地域開放可能なエリアを設け、地域一帯の賑わいを創出し、大熊町の復興の象徴の一つとなっている点や屋根の高断熱化等によりZEB Ready相当の省エネルギー対策を実現し、環境負荷低減に配慮した点が評価された。

1. はじめに

福島県大熊町の町立学校は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故による全町避難のため、震災以降、県内の会津若松市で活動してきた。平成31年4月に町内の避難指示が一部で解除された後、復興拠点の整備が進められ、子育て世代の帰町や移住に不可欠な教育施設として、認定こども園と義務教育学校が一体となった新たな町復興のシンボル「学び舎ゆめの森」が令和5年8月25日に供用開始された。

2. 事業の概要

本施設は全町避難を経験した大熊町内で、12年ぶりの学校再開に合わせて整備された、0歳から15歳までの子どもたちが共に遊び、学ぶ幼保・小中一貫の公立学校である。さらに地域住民の交流施設としても積極的に開放し、地域活性化、移住定住促進の起爆剤となる「0歳から100歳までの学び舎」の実現に取り組んでいる。

整備では、「混在と多様性」をキーワードに掲げる教育方針と建築が一体化した次世代の教育環境を目指した。建物は、三角形の鉄骨フレームからなるスケルトンと、家具、建具、遊具を融合したインフィルが重なり、開放的な図書ひろばを中心に学習エリアや保育エリアなどの各機能がつながる配置である。デジタルを活用して施設のすべてを教室とすることで、個別学習から異年齢が混じる集団活動まで、子どもたちが主体となった取組への挑戦が可能となっている。



公営住宅に隣接し、地域に開かれた学び舎ゆめの森の外観

深い庇による日射遮蔽や、高断熱外装サッシ、屋根の高断熱化などで熱負荷の低減を徹底するとともに、高効率な空調システムを採用することで、ZEB Ready相当（BEI=0.49）の省エネルギー対策を実現した。また、アリーナの換気システムに地中熱を利用したクール・ヒートチューブを採用するなど、子どもたちが身近な環境に興味を持てる工夫も行っている。

3. 事業の成果

図書ひろばでの演劇公演や住民参加型の運動会等を開催し、地域に向かって教育活動を開くことで、地域一帯のにぎわい創出に貢献している。魅力ある教育活動を通じた地域活性化を積極的に行っており、学び舎ゆめの森をきっかけに帰還や移住を決めた家庭も現れるなど、居住者増加にもつながっている。令和5年に0～15歳の子どもたち26人でスタートした学び舎ゆめの森は、令和6年には56人と倍増しており、子どもたちの元気な声が響く「当たり前の光景」を町内に取り戻すことができた。



図書ひろばで地域住民らに披露された演劇公演

4. おわりに

震災を経験し、ゼロからの復興まちづくりに取り組む大熊町だからこそ、未来を拓くことができる人づくりを目指しており、これからの時代に求められる多様性やSDGsに対応した「個別最適化された学び」や「探究学習のSTEAM化」といった特色ある教育を実践するためにつくられた施設が学び舎ゆめの森である。

そこでは、子どもたちが身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をより良くデザインする力を育む一貫した教育プログラムと教育環境が構築されている。

賛助会員 大成建設㈱